

2024年度 愛知学泉短期大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
32403	簿記基礎演習 Bookkeeping basic exercise	松葉哲也	✓	専門	1	選択	1.2前期
<b>科目の概要</b>							
簿記とは、会社などの事業者が日々行う取引を記録・集計し、最終的に貸借対照表と損益計算書を作成することで事業者の財政状態と経営成績を明らかにするための基本的技能である。ビジネスの多様化が進む現代で自立したライフスタイルをデザインするための専門的知識を修得することはディプロマ・ポリシーの③に相当し、その知識・技能の一例として簿記の基礎を習得する。★税理士としての会計及び税務実務経験を活かし、この科目では内容を簿記初心者向けの基礎知識にしぼり、時間をかけて解説する。							
<b>学修内容</b>				<b>到達目標</b>			
① 簿記の目的を理解する。 ② 簿記独自の分類方法である仕訳の意味を理解し、仕訳の方法を知る。 ③ 仕訳を集計して帳簿に記録する手順を知る。 ④ 試算表の意味を理解し、作成方法を知る。 ⑤ 財務諸表の内容から経営成績等を判断し、経営上の課題を考察する。				① 簿記の目的を説明することができる。ディプロマ・ポリシーの③に相当する。 ② 取引を簿記で仕訳し、転記し、集計して試算表を作成できる。ディプロマ・ポリシーの③に相当する。 ③ 経営上の課題を発見し、解決策を考察する。ディプロマ・ポリシーの③に相当する。			
<b>学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素</b>		<b>学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例</b>					
前に踏み出す力	主体性	ア. 簿記を使うために必要な知識について、教科書を使って自己学修することができる。 イ. 自ら練習する態度を身に付けることができる。					
	働きかけ力						
	実行力	ア. 仕訳を行うために必要な思考を、反復練習により身に付けることができる。 イ. 目標を設定し、最後までやり遂げることができる。					
考え抜く力	課題発見力	簿記という統一されたルールに基づいて情報を客観的に整理することで、経営状況を判断して経営上の課題に気づくなど、問題を自ら見極めることができる。					
	計画力						
	創造力	簿記という手段により、一つの事柄を多面的に捉えることを学び、固定概念にとらわれない情報理解のきっかけを手に入れることができる。					
チームで働く力	発信力	課題に取り組むうえで、自分の考えを相手に説明できる機会が期待でき、聞き手に伝わりやすいように工夫して発表することができる。					
	傾聴力	課題に取り組むうえで、他人の意見を確認して、その内容を自分の学びに活かすことができる。それを踏まえた自分の意見も述べるすることができる。					
	柔軟性						
	状況把握力						
	規律性	遅刻、無断欠席をせず、授業が円滑に進行するようにルールを守ることができる。					
	ストレスコントロール力						
<b>テキスト及び参考文献</b>							
テキスト：「サクッとわかる日商3級商業簿記テキスト【第3版】」 桑原知之著 ネットスクール出版 1,320円 参考文献：なし							
<b>他科目との関連、資格との関連</b>							
他科目との関連：簿記応用演習 資格との関連：簿記検定							
<b>学修上の助言</b>				<b>受講生とのルール</b>			
講義後に配布する復習用問題を解いて、学習済みの内容を次の講義までに整理しておくことよ。小テストで間違えた箇所を復習すること。				小テストのうち少なくとも1回及び第14週目の最終テスト、第15週目の授業は必ず受けること。			

【評価方法】

評価対象	評価方法	評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント		
学修成果	学期末試験	0	①			
			②			
			③			
	平常評価	小テスト	40	①	✓	
				②	✓	
				③	✓	
		レポート	50	①	✓	
				②	✓	
				③	✓	
		成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	0	①		
				②		
				③		
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓		
			②	✓		
			③	✓		
総合評価割合		100				

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
<p>S：損益計算書と貸借対照表の内容から、経営成績と財政状態の概要を把握したうえで、経営上の課題を1つ以上挙げることができる。</p> <p>A：総勘定元帳に転記された数字を集計して、合計試算表と残高試算表という2種類の試算表を作成することができ、これら2種類の試算表の相違点を理解している。</p>	<p>B：仕訳の合計額や残高を勘定科目ごとに把握するための方法として総勘定元帳に転記することを理解し、実際に転記ができる。</p> <p>C：取引を2つの側面に分けて記録する仕訳の基本的な概念を理解したうえで、収益と費用・商品売買など、基本的な仕訳することができる。</p>

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1	簿記は何のためにあるのか、その存在意義を学ぶ。簿記の最終目的は貸借対照表と損益計算書という2つの主要な財務諸表を作ることであり、それらの財務諸表が示す意味及び両者の関係を理解する。	講義 練習問題 練習問題のポイントを解説することでフィードバック	簿記の目的である貸借対照表と損益計算書は何のためにあるのか、両者はどう関係しているか説明できる。	(予習) 簿記が存在する目的を予習する。 (復習) 貸借対照表と損益計算書の借方・貸方に記載されている項目の種類と、その項目ごとのホームポジションは借方・貸方のどちらかを確認し、暗記する。	90	主体性 実行力 課題発見力 傾聴力 規律性
2	簿記独特の取引記録方法である仕訳について学ぶ。すべての取引を2つの側面に分けて、借方と貸方に分けて記録するという仕訳の基本的なルールを理解する。	講義 練習問題 練習問題のポイントを解説することでフィードバック	資産・負債・資本・収益・費用の要素があり、各々のホームポジションは借方(左側)・貸方(右側)のいずれであるかを答えることができる。	(予習) 簿記の基本的なルールである仕訳について予習する。 (復習) 資産・負債・資本・収益・費用には各々どのような勘定科目があるのかと、1つの取引を2つの側面で捉えるという簿記独特の考え方を復習する。	90	主体性 実行力 課題発見力 傾聴力 規律性
3	前回から引き続き仕訳の方法を学ぶ。特に、資産・負債・資本・収益・費用の各項目についてホームポジションの意味と位置について理解を深め、実際に仕訳する。	講義 練習問題 練習問題のポイントを解説することでフィードバック	基本的な取引を資産・負債・資本・収益・費用の増加または減少を使って2つの側面で捉え、仕訳の形で表現できる。	(予習) 各項目の金額が減少したときはどのように仕訳するのかを予習する。 (復習) 資産・負債・資本・収益・費用の各項目の増加または減少の組み合わせであることを意識しながら基本的な仕訳を復習する。	90	主体性 実行力 課題発見力 傾聴力 規律性
4	前回から引き続き仕訳の方法を学ぶ。特に、資産・負債・資本・収益・費用の各項目が減少した場合はホームポジションの反対側に記入することを理解し、実際に仕訳してみる。	講義 練習問題 練習問題のポイントを解説することでフィードバック	基本的な取引を仕訳の形で表現できる。減少した場合はホームポジションの反対側に記入することを理解している。	(予習) 各項目の金額が減少したときはどのように仕訳するのかを予習する。 (復習) 資産・負債・資本・収益・費用の各項目の増加または減少の組み合わせであることを意識しながら基本的な仕訳を復習する。	90	主体性 実行力 課題発見力 傾聴力 規律性
5	仕訳ができるようになれば、その仕訳を勘定に転記し、残高や合計を把握するのが次のステップである。仕訳と並ぶ簿記の基本的技術である勘定転記の方法を学修する。	小テスト(仕訳問題を出題する。パソコン上で表示・回答する。) 講義 練習問題 練習問題のポイントを解説することでフィードバック	仕訳を勘定に転記する方法を理解している。	(予習) 仕訳を勘定科目ごとに集計する方法として勘定に転記する方法を予習する。 (復習) 仕訳で貸方・借方それぞれに出現した勘定科目の数字を勘定の貸借同側に転記するという基本を復習する。	90	主体性 実行力 課題発見力 傾聴力 規律性
6	前回に引き続き、仕訳と並ぶ簿記の基本的かつ重要技能である勘定転記の方法を学修する。	小テストの要点をパソコン上で表示し振り返り解説 講義 練習問題 練習問題のポイントを解説することでフィードバック	仕訳を勘定に転記する方法と、転記された数字は何を意味するのかを理解している。	(予習) 勘定に転記するためのポイントを予習する。 (復習) 仕訳で貸方・借方それぞれに出現した勘定科目の数字を勘定の貸借同側に転記するという技能を復習する。	90	主体性 実行力 課題発見力 傾聴力 規律性
7	現金・預金・収益・費用の仕訳を学ぶ。具体的には、小切手の意味と使い方、小切手を受け取った場合と振出した場合の仕訳を学修する。	講義 練習問題 練習問題のポイントを解説することでフィードバック	小切手を受け取った場合と振出した場合にそれぞれどう仕訳するかを理解している。	(予習) 今回から仕訳する取引の範囲が広がることに備え、小切手を受け取った又は振出した場合の仕訳を予習する。 (復習) 小切手を受け取った場合と振り出した場合の仕訳を復習する。	90	主体性 実行力 課題発見力 傾聴力 規律性
8	商品売買を行った場合の仕訳を学ぶ。仕入れたときは原価、売った時は売価を使うことを理解する。さらに、売れた商品をいくらで仕入れたのか(売上原価)を計算するためにどう仕訳すればよいかを知る。	小テスト(勘定転記を出題する。パソコン上で表示・回答する。) 講義 練習問題 練習問題のポイントを解説することでフィードバック	商品を仕入れたとき、売却したとき、期末に売上原価を算定するときという3つの場面に応じた仕訳のパターンを理解している。	(予習) 商品の売買を行った場合の仕訳を予習する。 (復習) 仕入・売却・売上原価算定の3つの局面において行うべき仕訳は決まっているので、それぞれの仕訳の意味を理解したうえで暗記する。	90	主体性 実行力 課題発見力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9	商品売買の代金決済に関連して、売掛金など債権・債務が発生する。これらの債権・債務が増減した場合の仕訳について学ぶ。また、伝統的な代金決済手段である約束手形の特徴を理解し、その仕訳を学ぶ。	小テストの要点をパソコン上に表示し振り返り解説 講義 練習問題 練習問題のポイントを解説することでフィードバック	約束手形の意味と使用する場面が理解でき、約束手形を含む債権・債務が増加又は減少する取引の仕訳ができる。	(予習) 小切手に続く支払手段である手形の仕訳について予習する。 (復習) 約束手形は振出す場合と受け取る場合で異なる勘定科目を使うことを中心に、債権・債務の仕訳を復習する。	90	主体性 実行力 課題発見力 傾聴力 規律性
10	固定資産を購入・保有する場合の仕訳について学修する。固定資産の価値下落を長期にわたり費用化する減価償却という手続きについて知り、その仕訳を学ぶ。	講義 練習問題 練習問題のポイントを解説することでフィードバック	与えられた資料から減価償却費の計算ができる。仕訳することができる。	(予習) 固定資産の価値が経年・使用により下落することをどう仕訳するか予習する。 (復習) 長期にわたって使用する固定資産の費用化として独特な概念である減価償却の意味を理解し、その仕訳方法を復習する。	90	主体性 実行力 課題発見力 傾聴力 規律性
11	仮払金・立替金・預り金など一時的な金銭の授受についての仕訳を学修する。	小テスト(商品売買を出題する。パソコン上で表示・回答する。) 講義 練習問題 練習問題のポイントを解説することでフィードバック	一時的な金銭の授受について仕訳できる。	(予習) 出張費をあらかじめ前払いするなど、一時的な取引を行った場合の仕訳について予習する。 (復習) 仮払金・立替金・預り金など一時的な取引の意味を整理しながら仕訳を行う。	90	主体性 実行力 課題発見力 傾聴力 規律性
12	第5回の授業で行った仕訳の勘定転記から一歩進めて、勘定科目ごとの合計や残高を集めて、試算表を作れることを学ぶ。試算表には2種類の作成方法があることを理解する。	小テストの要点をパソコン上に表示し振り返り解説 講義 練習問題 練習問題のポイントを解説することでフィードバック	仕訳を勘定に転記し、その合計や残高を基に2種類の試算表を作ることができる。	(予習) 試算表の作成の基礎となる仕訳の勘定転記について、その方法を思い出しておく。 (復習) 試算表問題を解く鍵は基本的な仕訳ができるかどうかである。基本的な仕訳を復習する。	90	主体性 実行力 課題発見力 傾聴力 規律性
13	第12回で学修した試算表について、練習問題に取り組みながら2種類の試算表の作成手順をもう一度確認し、習得する。	練習問題 練習問題のポイントを解説することでフィードバック	合計試算表と残高試算表という2種類の試算表の意味と違いを理解しながら、実際に作成できる。	(予習) 試算表の作成の基礎となる基本的な取引の仕訳を思い出しておく。 (復習) 合計試算表と残高試算表の違いを明確にしつつ、試算表の作成方法を復習する。	90	主体性 実行力 課題発見力 傾聴力 規律性
14	最終テスト(試算表ともう1問を出題する)	最終テスト(パソコン上で表示・回答する。) 最終テストの要点をパソコン上に表示し振り返り解説	試算表のには2種類あることを理解し、いずれの方法でも作成することができる。	(予習) 最終テストに向けてこれまでの小テストの出題内容を見直す。 (復習) 最終テストのポイント解説内容を復習する。	90	主体性 実行力 課題発見力 傾聴力 規律性
15	財務諸表(貸借対照表と損益計算書)から経営成績と財政状態を判断し、経営上の課題を発見する着眼点を学ぶ。さらに、その課題を解決する方法も考察する。	オンデマンド レポート課題提出	貸借対照表と損益計算書を見るポイントを理解していること。少なくともこれらの帳票の目的を理解していれば、到達レベルCに達しているものとする。	(予習) 貸借対照表と損益計算書の目的と両者がどう関係しているかを復習する。 (復習) 経営上の課題発見につながる着眼点がどこだったかを復習する。	90	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力